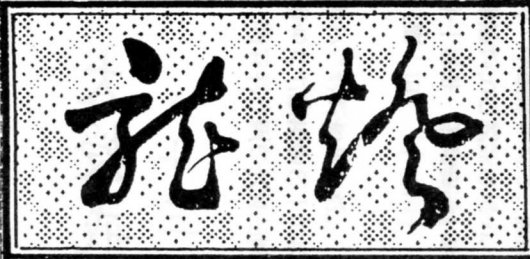


第34号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
 靈 龜 山 九 島 禪 院
 〒550-0022大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-6583-2725
 発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)



加藤氏の乱と龍溪禪師

— 変革には大死一番の覚悟を —

小紙に政治のことはふさわしくないが、一体あの『自民党、加藤氏の乱』は何だったのか？十一月九日に始まった自民党元幹事長加藤紘一氏の倒閣運動は野党も巻き込み、自民党分裂政界の再編成につながるかと、国民の注目を集めました。

盟友山崎拓元政調会長とともに、野党提出の内閣不信任決議案に同調し、森喜朗首相の退陣を求めましたが、野中広務幹事長ら執行部の小選挙区での公認調整を武器にした激しい切り崩しの前に、土壇場で加藤・山崎派議員が欠席するという、あけない結末でした。

このドタバタ騒ぎを通して、人間の弱さ、自民党の主流派から脅されておろおろする人間ドラマを見たのは小柄だけではないはず。

拙院のご開山龍溪禪師のご生涯は、さきに発表した慶讃ビデオをご覧いただくとして、今回の政変？劇を見て、龍溪禪師の偉大さを再認識しました。

徳川幕府が政権を握り、禁中

を始め宗教界から庶民社会に至まで圧迫を加え、また外国との交流を禁じた鎖国政策のため、国内全般に意気沈滞、特に仏教界も衰微の一途を辿っていた頃、禪師はこの衰微した仏教界に一喝を入れんと、かねてよりその語録を通じて隠元禪師の禅風を知り、中国臨済宗の正脈を受け継ぐ真正の禅匠である隠元禪師の日本禅宗の繪本山妙心寺への招請運動を画されました。

同志十人ばかりと、この運動に乗りだされたが、妙心寺内の一流相承（妙心寺開山関山慧玄の法系を承ぐ者が管長に就く）を標榜する主流派の強力な反対にあい、同志も次々と脱落し禪師一人になってしまいいついに妙心寺からも追放され除籍処分になってしまいました。

それでも、ひるむことなく龍溪は、隠元禪師に師事して、当時の新寺建立禁止という幕府の政策にもかかわらず、幕閣への運動が功を奏し、寛文元年（一六六一）、宇治大和田に黄檗山萬福寺が建立され、隠元禪師を

開祖とする日本黄檗宗を誕生させ、仏教界その他に大きな影響を与えました。

いづれの時代においても、既成勢力を打破して、新しい時代を築くことは、並大抵のことでありません。今回の政変？劇も、自民党の主流派から脅されておろおろする人間ドラマを見せつけられ、大きな力に翻弄される人間の弱さを思い知らされました。

「日本を変える！」長いドラマの第一幕が始まったと加藤氏は決起されましたが、あのような腰砕けの結末を迎えようとは。ただ一人になっても戦う気概がほしかった。

高杉晋作は、ただ一人決起し長州藩の藩論を倒幕へと引っ繰り返したように。龍溪など、歴史上の英雄の偉大さを思い知らされた十日間でした。



無念の表情の加藤氏

大阪にオリンピックを！ 九条に中華街を！ 二十一世紀がはじまる年！

大授戒会に参加して 八十三世の法孫を自覚

私は此の度の大本山萬福寺で厳修された授戒会の一曰戒に参加させていただきました。

(第一日) 十月三十一日

十一時半 研修道場で受付。注意事項などの説明のあと、「おいずる」を授与される。南無釈迦牟尼佛、善哉解脱服、夢相福田衣と墨書されており、戒を受ける時には必ず衣服の上に着るようにと説明を受ける。

十二時半

齊堂で食事。食事は一汁一菜で大中小の椀に食べ物を採り分け、感謝をこめて五観の偈を唱えて合掌して頂く。私語はできない。

二時

禪堂で誓戒懺悔、滅罪焼却、剃頭、三帰依、五戒。犯した罪を告白し、紙に書いて法火で焼き尽くす法式の後、心中にある煩惱や罪咎をとるために禪師さまより頭を剃る儀式の後、三宝(佛法僧)に帰依する戒律、五戒を授けられる

(第二日) 十一月一日

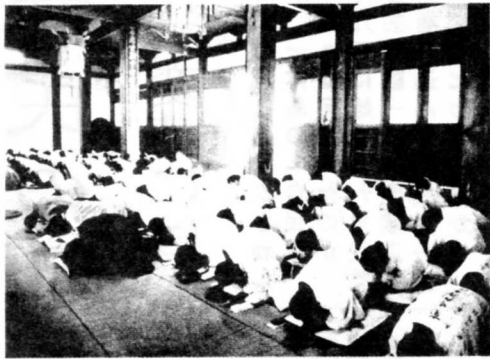
四時半 大殿(本堂)で朝のお勤めに参列。終わって禪堂で坐禅。

六時

禪堂で説教(お袈裟と戒牒の話)を受ける。

七時

齊堂で粥座。朝の起床が早かったのと空腹の為か、真っ白で程よく炊けた粥が本当に美味しかった。この味は忘れない。



懺悔のお拝 (本山での授戒会)

八時

禪堂で附衣法式。禪師さまよりお袈裟(輪袈裟)を頂く。身が引き締まる覚えがする。

九時

禪堂で度牒法式。血脈を頂き、二文字の法号を授与される。お釈迦さまより数えて八十三世の法孫ということに改めて自覚す

十時

禪堂でご親教。赤松禪師さまより、今後の心掛けにつき「自らなる己、他なる己」というお言葉を頂き、その後祈念写真。

初めての授戒で僅か二日でしたが、その内容は極めて厳かで、大いなる精神修養になりました。特に拝懺会での一佛一拝する儀式では、自分たちが犯してきた罪を懺悔し反省するため、「南無三世一

戒牒

右條付受戒弟子 後集 收執

書証の頂ける共に名戒 戒牒 (前回の時のもの)

切諸佛」と唱えて佛を礼拝すると三十五回。直壇(堂内世話係)の和尚さまが「皆さんのお拝は二日を通じておおよそ百回位ですが、本当は千回以上するのですよ」と説明を受け、改めて修行の厳しさと尊さが理解できました。また、法式などの進行の時間が極めて正確なことも感心致しました。

今回の授戒会に参加できたのは九鳥院の和尚さまのお取り計らいと大本山萬福寺の禪師さまをはじめ各和尚さま方のお導きのお蔭ごと心より感謝し、この経験を中心の糧としてこれからの人生を進んでいきたいと思えます。有り難うございました。

平成十二年十一月八日

九鳥院檀徒 絹川 勝一

大阪にオリピックを!

九条に中華街を!

二十一世紀がはじまる年!

第七回修養会ご報告

見事な紅葉に感嘆の声

十一月十九日に、第七回修養会が催されました。

本年は日本の里山風景を残す、三田市郊外山間部にある黄檗寺院二ヶ寺を訪ねました。総勢四十名の参加者一同、無事に秋の一日、紅葉を楽しんできました。

バス運転手さん曰く「昨日、山梨県へ紅葉狩りのツアーで行ったが、この紅葉ほど見事なものはない。こんな風情のあるお寺があるなんて知らなかった。嫁はんを連れてきたら・・・と、それは素晴らしい紅葉でした。

九条から一時間半、三田後川線に沿って走り、大舟山の北山裾にある方廣寺は、しだれ桜と石庭、四季それぞれに花が咲く山寺です。本堂で、参加者各家先祖供養をすませ、住職の鈴木忍明尼より、寺の由来や当院先代弘忠和尚の思い出をお聞きしました。尼幼少の頃、夏

のお施餓鬼法要には和尚が来られたそう。夏のお施餓鬼法要には和尚が来られたそう。伊丹常休寺、翌日は大舟寺でお施餓鬼法要の後投宿され、歩いて山越えの道を方廣寺まで、お施餓鬼に来られたそうです。境内を愛した書家上田桑鳩の作品を鑑賞し、境内を散策。寒気のもと紅葉は見事

事でした。

同寺は摂津麻田藩（豊中）の藩主青木重兼が創建され、日夜雲水とともに参究修行された寺で、二万四千坪の境内三十余町歩の山林をもつ大寺ですが、現在は本堂と庫裏、鐘楼などひっそりとした佇まいです。

次にバスで三十分、大舟山の南山裾にある大舟寺にむか

い拝塔。山門をくぐると、樹齢五百年をこすカヤの巨木（県指定天然記念物）が一行を迎えてくれました。本堂での回向のあと、客殿で普茶料理を頂きました。住職は大本山萬福寺で典座（てんざう）食事係）和尚を勤められた経歴の持ち主で、腕によりをかけて作られた料理に舌鼓。一同満足しました。

帰路、有馬温泉に寄り、温泉寺（黄檗宗）に参詣の後、隣りの極楽寺に新しくできた「太閤の湯殿館」を見学しました。阪神大震災で壊れた庫裏下から発見され建設されたものだそうです。

年 忌 表 (平成13年)

| 回 忌 | 死 亡 年 |
|--------|---------|
| 1 周 忌 | 平成 12 年 |
| 3 回 忌 | 平成 11 年 |
| 7 回 忌 | 平成 7 年 |
| 13 回 忌 | 平成 1 年 |
| 17 回 忌 | 昭和 60 年 |
| 25 回 忌 | 昭和 52 年 |
| 33 回 忌 | 昭和 44 年 |
| 50 回 忌 | 昭和 27 年 |

※来年度の年忌表をかかげます。お位牌や過去帳などをご確認下さい！尚、23回忌・27回忌・37回忌・43回忌・47回忌などは禅宗や当地域では執行しません。年忌法要は祥月命日前の土曜・祝日曜にされることが多く、他家の法事と重なり、ご希望に添えない事もあります。遅くとも1カ月以上前までに当院まで、日取りと場所などのご希望のご連絡をお願いします。又、ご法事などに、龍燈会館（椅子席）・本堂をご利用ください。精進落としての料理・酒類なども準備できます。



見事な紅葉の下（方廣寺）

西暦二〇〇八年 大阪にオリンピックを招致しよう！

奉納抄

編集後記

山門 募 寄 贈

(平成十二年七月)

故大内義雄殿の三回忌の供養にと、奥様大内千恵子さまより、山門幕がご奉納されました。この度、山門に手を入れましたので、山門幕を新調させて頂きました。厚くお礼申し上げます。

▼本年は開山龍溪禪師にとって慶事が続きました。萬松院の新築本堂には、南面界の重鎮直原玉青師が襖絵を六十面寄贈され、テレビ新聞などで報道されました。
▼慶瑞寺、地安寺でも、記念の事業が興されましたが、派頭寺院の正明寺では、今夏の落雷で禅堂が全焼する痛ましい出来事もありました。

▼拙院発行の記念誌と慶讃ビデオ「龍溪」は、宗内各末寺のほか、花園大学、駒沢大学などの禅研究所や仏教学者、大阪中央図書館に寄贈しました。
▼九条出身の仏教啓蒙家、ひろさちあ氏は、郷土の偉人として龍溪禪師を世に広めたいとお手紙を頂きました。
▼今日ほど、龍溪の生きようから学べきだとの憶いを新たにしました。
墓地管理費のご納付をお願いします。墓参の折、郵便為替でも結構です。

● 医療過誤

拙寺に家族がふえました。七ヶ月になるゴールデンリトリバー犬です。「居候」の秋田犬が死にしばらくは犬は飼わないつもりでしたが、毛並みもよく、なによりも利口で人なつっこさが気に入り、家族の一員となりました。龍溪禪師にあやかり「龍(りょう)」と名づけ、すっかり家族のアイドルになっていました。

昨今、医療過誤事件が報道されています。乳がんでない乳房を切除されたとか、抗ガン剤を限度以上に点滴したとか、連日、テレビのワイドショーを賑わせています。医療ミスは人の世界だけでなく、動物ペットの世界でも日常茶飯事だそうです。

わが家の「龍」も、動物病院で打ってもらったかゆみ止めの注射が原因で、首のところに大きな瘤が出来てしまいました。ほっておいてよいと言われましたが、病院をかえて診てもらったところ切除すれば治るとのことで、手術を受けたところ、二度の手術にもかかわらず、病気が再発しました。病院もお手上げだということでした。獣医の先生は誠実に診てくれましたので、全幅の信頼を寄せていましたし他の病院という頭もなかったのですが、近辺の評判は悪く、やぶ医者だという悪評が立っていました。自分に手に負えない病気ならば、早くよその病院を紹介するとかしてくれればいいのに、さじを投げられた患者は、いったいどうすればいいのでしょうか幸い大阪で一番との評判の岸上動物医院(阿倍野)で再手術を受けることになりました。

わが家のペットは、居候犬といい、チャウチャウ犬といい、病気もちの犬ばかりでした。「病気もちの犬でも安心してまかせられると神様が和尚さんのお家を選ばれたんでっしょろ！」とは、あるお檀家さんの言葉です。死んだ犬たちも、わが家で飼われて本当に幸せだったのでしょろ。



お 知 ら せ

◎のぼり奉納の募集 1旗金2千円

「南無観世音菩薩のぼり」を入れ替えます。1年間境内に掲げます。昨年同様お施主さんを募集いたします。為書きと施主名を墨書します。ご希望の方は寺務所まで、お声をかけてください。

西暦二〇〇八年 大阪にオリンピックを招致しよう!